

# 長久手市制施行に向けて まちづくりシンポジウム

問合せ 計画課 (☎56-0623)

3月27日(日)、文化の家森のホールで「まちづくりシンポジウム」を開催しました。来年1月4日の長久手市制施行に向けて、これまでの長久手の歴史や取り組みを振り返るとともに、今後、どういったまちづくりを進めていくか議論が行われました。約250名の参加者は、講演やパネルディスカッションに熱心に耳を傾けました。



## 加藤町長 主催者あいさつ要旨

私が長久手村役場に奉職したのは昭和30年です。当時は人口6,500人ほどの小さな村でしたが、その時から長久手の明るい将来性を信じていました。

昭和46年には町制施行を行いました。人口は1万人を超え、地下鉄が藤が丘駅まで延伸し、グリーンロード開通、愛知青少年公園開園と、まさに飛躍の節目となる時期でした。

これらの都市基盤の整備に合わせて土地区画整理を行い、素晴らしい生活環境の市街地整備が進みました。長湫西部(昭和47年発足)、長湫東部(昭和49年発足)、長湫中部(昭和57年発足)の土地区画整理は規模も大きく、長久手町の中心市街地を形成してきました。また、現在進行中の長湫南部や長久手中央の土地区画整理でも特色あるまちづくりが進められています。

平成11年には、「長久手田園バレー構想」が立案されました。今日に至るまでまちづくりの大きな柱となっており、「農あるくらし・農のあるまち」の実現のため、農業振興や農を通じた住民同士の交流などを図る多様な事業を継続的に進めています。

そして、平成17年には「自然の叡智」をメインテーマとして愛・地球博が開催されました。185日間の会期中に国内外から2,205万人もの来場者を迎えました。万博にあわせて1,900人を超えるおもてなしボランティアが活躍し、町内各地で来場者をもてなしました。

万博の会期中、多くの来場者を運んだのがリニモです。リニモは町内を東西に背骨のように貫く、長久手町の発展のために欠かせない公共交通です。今後も「リニモを生かしたまちづくり」をいかに進めて行くかを住民のみなさんと一緒に考えていきます。

さて、昨年の国勢調査で人口は52,399人となり、来年1月4日の市制施行の手続きを進めています。これからの数年間は長久手の将来の方向性を決める大切な時期です。長久手を愛し、ここに住んで良かったと言えるまちにしていくには、多くの住民の知恵、つまり「住民力」をお借りしなければなりません。

今日もパネリストのみなさんと話し合っていますが、未来のまちづくりに向けて、住民の皆さんからアイデアをいただきながら議論を何回も重ね、一緒に進めていくことが長久手「市」のまちづくりとして、ますます重要になると考えています。

## ■講演「今に生きる過去の景観—地図にみる長久手の歴史—」

小牧・長久手の戦いなど長久手町の歴史を過去の地図や地形から読み解いて、町内の史跡などがそこにある理由を地理的な視点から分析し、「土地に残る歴史の痕跡を長久手独自のローカルな価値として再発見して」と提言しました。

山村 亜希  
(愛知県立大学日本文化学部准教授)

講演者



## ■パネルディスカッション「ながくて未来フォーラム」

コーディネーター



黒神 聡  
(愛知学院大学法学部教授)

パネリスト



瀬口 哲夫  
(名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授)



菊地 正悟  
(愛知医科大学医学部教授(公衆衛生学))



小島 祥美  
(愛知淑徳大学コミュニケーションセンター講師)



松山 有美  
(名古屋経営短期大学子ども学科講師)



相原 愛  
(長久手町環境審議会委員)

加藤 梅雄  
(長久手町長)

都市計画、医療、子育てなどさまざまな分野の有識者から今後の長久手のまちづくりの進め方についての意見が出されました。コーディネーターの黒神さんから「それぞれの場面で長久手の特色を出して、ぜひ住民の皆さんが一体となったまちづくりを」と呼びかけました。

講演やパネルディスカッションの詳細は町のホームページ(町政情報—市制施行準備)で見ることができます